

大台ヶ原自然再生推進計画（次期計画）の目次案

はじめに

第1章 自然環境の特性

第2章 自然再生の取組に至る経緯と現状までの経緯

第3章 対象地域の現状と課題（2期10年の取組より）

第4章 自然再生の目標

1. 目指すべき大台ヶ原の姿（長期目標）
2. 当面20年程度（平成26年度～平成45年度）の取組の方向性
 - (1) 緊急保全対策（1,2期計画の継承）
 - (2) 森林更新環境の場の保全・創出
 - (3) ニホンジカ個体群の保護管理
 - (4) 新しい利用の在り方

第5章 取組内容

1. 緊急保全対策（1,2期計画の継承）
 - (1) 取組の視点
 - (2) 考えられる取組
 - (3) 取組結果の評価
2. 森林更新環境の場の保全・創出
 - (1) 取組の視点
 - (2) 考えられる取組
 - (3) 取組結果の評価
3. ニホンジカ個体群の保護管理
 - (1) 取組の視点
 - (2) 考えられる取組
 - (3) 取組結果の評価
4. 新しい利用の在り方
 - (1) 取組の視点
 - (2) 考えられる取組
 - (3) 取組結果の評価

第6章 実施体制等

1. 科学的知見に基づく検討
2. 関係行政機関を含む官学の連携による取組の充実
3. 大台ヶ原の利用に関する協議会との連携
4. 多様な主体の参画による協働

第7章 対象地域の生態系の特性の評価について

第8章 実施スケジュール

第9章 取組内容の見直し

はじめに

大台ヶ原における自然再生事業の対象地域と自然再生の概要について記載する。また、本計画書の位置づけを示す。

第1章 自然環境の特性

以下の自然環境の特性の概要について示す。

- ・地形・地質
- ・気象
- ・植生
- ・生物相
- ・自然環境に係る法規制関係等（国立公園、鳥獣保護区、森林生態系保護地域、土地所有等）

第2章 自然再生の取組に至る経緯と現状までの経緯

大台ヶ原における自然環境の変遷や自然再生の取組、利用動向の変化について整理する。また、従来実施してきた森林保全対策、ニホンジカによる森林植生への影響軽減対策に加え、利用対策の充実を含めた総合的な視点に立った森林生態系の保全再生を図るために大台ヶ原自然再生推進計画を策定し、自然再生の取組を実施することに至った経緯と現状までの計画について整理して記載する。

第3章 対象地域の現状と課題（2期10年の取組より）

第2期計画の評価書を要約し、2期10年間における取組の評価と今後の課題について整理して記載する。

第4章 自然再生の目標

1. 目指すべき大台ヶ原の姿（長期目標）

第2期計画に記載されている長期目標を記載する。

2. 当面20年程度（平成26年度～平成45年度）の取組の方向性

以下の内容を記載する。

(1) 緊急保全対策（1,2期計画の継承）

2期10年間において検討実施してきた緊急保全対策を継続することで、森林後退を抑止し、森林生態系の保全を目指す。

(2) 森林更新環境の場の保全・創出

森林更新の阻害要因を取り除く等、基礎条件を整えることにより、森林更新環境を保全・創出し、樹木実生が定着し、後継樹が健全に育成される森林更新環境の回復を目指す。

(3) ニホンジカ個体群の保護管理

健全な森林更新がなされるよう、ニホンジカ個体群を適正な生息密度へ誘導する。

(4) 新しい利用の在り方

利用の量の適正化による自然環境への負荷の軽減、より質の高い自然体験学習の提供等、周辺地域の活性化も念頭に置いた大台ヶ原における新しい利用形態をつくりあげることを目指す。

第5章 取組内容

1. 緊急保全対策（1,2期計画の継承）

(1) 取組の視点

ニホンジカによる生態系被害が顕著に現れる等、緊急に保全が必要な箇所や人の利用に起因する自然環境の衰退を抑制することを目的に対策を講じることを記載する。

(2) 考えられる取組

大規模防鹿柵、生物多様性保全防鹿柵の設置・改良、剥皮防止ネットの設置・更新、西大台利用調整地区運用、レクチャーの充実、歩道・道標整備による歩道の固定化などを取り組むことを、各取組の目的（効果）を明確にして記載する。

(3) 取組結果の評価

上記取組の結果を評価するためのモニタリング項目を示すとともに評価の視点を記載する。

2. 森林更新環境の場の保全・創出

(1) 取組の視点

林冠ギャップ地、疎林部といった森林更新環境の場等において、生物多様性の保全を行いつつ、後継樹が健全に生育できる環境を整えるための対策を講じることを記載する。

(2) 考えられる取組

森林更新環境の場を保全するために小規模防鹿柵（パッチディフェンス含む）や生物多様性保全防鹿柵、自生稚樹保護柵の設置を行うとともに、森林更新環境の場を創出するために第2期までに試験実施し、効果が期待されているササ刈り、坪刈り、地表処理等を適宜組み合わせた取組や新たに試験的に実施する倒木の設置等の取組内容を例示し、各取組の目的（効果）を明確にして記載する。

また、これら取組以外にも森林更新環境の場の保全・創出に寄与すると考えられる新たな取組があれば、適宜検討を行い試験的に実施・評価を行ったうえで計画に反映していくことを記載する。

(3) 取組結果の評価

上記取組について、評価を行うためのモニタリング項目を示すとともに評価の視点を記載する。

3. ニホンジカ個体群の保護管理

(1) 取組の視点

ニホンジカ個体群を適正な生息密度への誘導・維持するための個体数調整を実施することを記載する。

(2) 考えられる取組

ニホンジカの個体数調整を行うとともに、周辺地域と連携した広域的個体群管理の検討を行うことを記載する。

(3) 取組結果の評価

上記取組の結果を評価するためのモニタリング項目を示すとともに評価の視点を記載する。

4. 新しい利用の在り方

(1) 取組の視点

利用の「量」の適正化と「質」の改善により、利用の自然環境への影響を極力軽減すること及び、質の高い自然体験学習を提供することを記載する。

(2) 考えられる取組

関係者それぞれの役割に応じて実施することを前提として、適正利用に係る交通量の調整、より良好な森林地域の保全と質の高い利用の提供、総合的な利用メニューの充実を図ることを記載する。

(3) 取組結果の評価

上記取組を評価するために行うモニタリング項目について、評価のするための視点を明確にして記載する。

第6章 実施体制等

大台ヶ原における自然再生をより効果的、効率的に進めるために科学的見地に基づき検討及び評価を行うとともに、関連する協議会、関係機関、多様な主体等と連携を図りながら取組を実施することを記載する。

1. 科学的知見に基づく検討

大台ヶ原自然再生委員会（仮称）の設置と委員会において各種取組の検討及び評価を実施することについて記載する。

2. 関係行政機関を含む官学の連携による取組の充実

各県、町村及び学識者等との連携を実施し、各機関の自主的な取組を活発化させること、及び、それら取組を積極的に自然再生事業に取り込んでいくことを記載する。

3. 大台ヶ原の利用に関する協議会との連携

大台ヶ原の利用に関する取組について、大台ヶ原の良好な自然環境を保全しつつ国立公園として持続可能な利用及び西大台利用調整地区の適切な管理を実施していくため、関係者の合意形成を行うとともに連携・協同を図ることを目的とする「大台ヶ原の利用に関する協議会」と連携することにより、自然再生の側に立った取組について進めていくことを記載する。

4. 多様な主体の参画による協働

上記2・3とも関連させ、地域住民、利用者や関係機関が積極的に自然再生事業に参画できる体制を構築することを前提として地域住民や利用者等の参画による自然再生の協働について記載する。

第7章 対象地域の生態系の特性の評価について

大台ヶ原自然再生事業の実施に伴う、大台ヶ原全体の変化について評価を行うために必要となる調査（気象データ、動物相、植物相、景観変化、林冠ギャップ地分布、下層植生分布等）について、調査の目的を明確にして記載する。

第8章 実施スケジュール

「森林生態系保全」と「ニホンジカ個体群管理」、「新しい利用の在り方推進」の3本柱について、2期10年間と今後の20年間について、継続して実施する取組、新たに実施する取組、終了した取組が解るように整理し記載する。

第9章 取組内容の見直し

第5章「取組結果の評価」及び第7章「全体の評価について」をもとに評価を行い、取組内容を見直すことを記載する。併せて、計画期間にとらわれずに必要な時に取組内容の変更・追加が可能となる順応的管理を行うことを記載する。